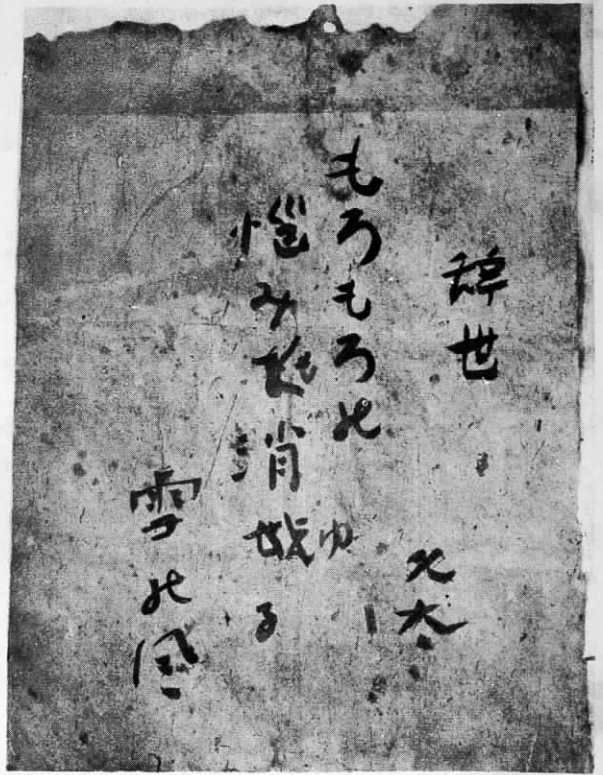
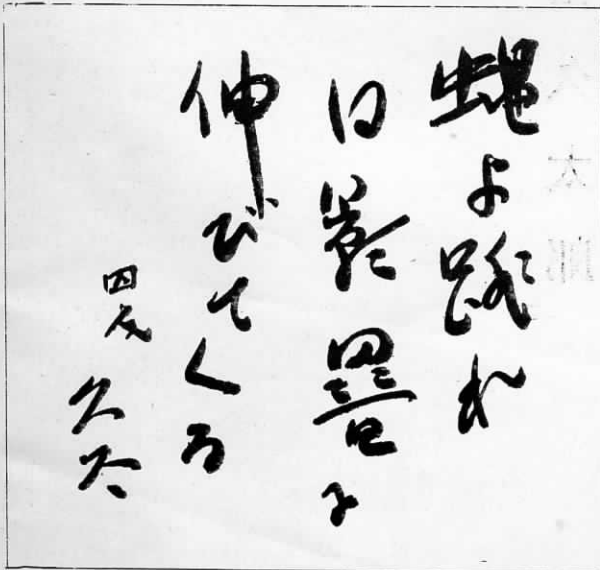


# 獄窓から

和田久太郎



久太筆跡



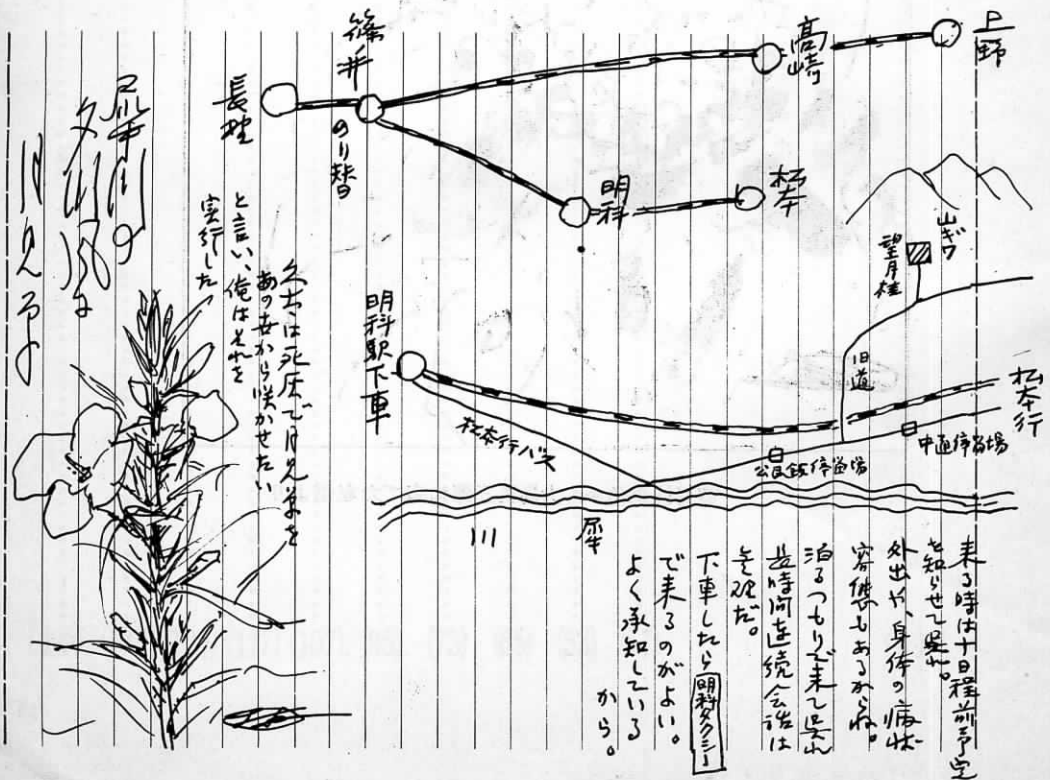
久太自筆の句

久太の遺骨を安置した  
近藤憲二（左側）と望月桂（右側）



望月桂画伯から大島英三郎に宛てた私信より  
(久さんの墓の所在について)

—1971・7・15日付—





けかきおろし

久太の骨は

僕が姫路の彼

ヲ生家へ通けた

そのし甲のり交心

あつた。

坂本母一

中末付で

如系陽花の色

夢々ゆくまち

望月桂画伯から大島英三郎に宛てた私信より

# 目次

口絵写真・久太の像 他

碧雲暗雲……………(1)

悲痛の感激・悲痛の快感  
句作の思い出  
野郎泣くな！  
大杉の個性教育

村木源次郎君の追憶  
後事頼み置く事ども  
死刑を直視しつつ

市ヶ谷から……………(17)

あくびの涙……………(53)

鉄窓三昧……………(65)

孤囚漫筆……………(73)

秋田から……………(95)

霞の窓……………(107)

露汁……………(117)

略歴……………(129)

久太漫評……………(137)

獄中の俳人(芥川龍之介)……………(144)

あとがき